

コナジラミ類情報第1号（トマト）

令和2年11月2日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

発生ほ場率が高い！発生状況に注意し、防除しましょう。

1 発生状況及び今後の発生予測

10月下旬に行った巡回調査において、成虫寄生枝率が4.8%（平年2.5%、前年8.1%）で過去10年と比較して3番目に高く、発生ほ場率は50.0%（平年27.0%、前年42.9%）と、過去10年で最も高い状況です。

名古屋地方気象台10月29日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は平年並か高いと見込まれており、本種の発生に好適な状況が続く可能性があります。ほ場での発生状況に注意しましょう。

2 防除対策

- (1) 施設内への侵入を防ぐため、開口部に防虫ネット（目合い0.4mm以下）を展張しましょう。設置してあるハウスについても、被覆ビニルや防虫ネットに破損や隙間が無いか点検し、必要に応じて補修しましょう。
- (2) 表1を参考に防除を徹底しましょう。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、IRACコードが同じ薬剤を連続して使用することは避けましょう。
- (3) 花粉交配用昆虫を利用する場合は、影響日数に注意して農薬を選定しましょう。
- (4) タバココナジラミ（図1）はトマト黄化葉巻病（図2）の病原ウイルスを、コナジラミ類はトマト黄化病の病原ウイルスを媒介します。ウイルスの発病株は見つけ次第抜き取り、適切に処分しましょう。
- (5) トマト黄化葉巻病については、耐病性品種であっても感染源となり得るため、感受性品種と同様に防除を行いましょう。



図1 タバココナジラミ（左：幼虫、右：成虫）



図2 トマト黄化葉巻病の発病株

表1 トマトにおけるコナジラミ類の主な防除薬剤

薬剤名	成分	使用時期	本剤の使用回数	IRACコード
アグリメック(※1)	アバメクチン	収穫前日まで	3回以内	6
アニキ乳剤	レピメクチン	収穫前日まで	3回以内	6
アプロードエースフロアブル(※1,2)	フェンピロキシメート・ブプロフェジン	収穫前日まで	3回以内	21A・16
コルト顆粒水和剤	ピリフルキナゾン	収穫前日まで	3回以内	9B
ベネビアOD	シアントラニリプロール	収穫前日まで	3回以内	28
コロマイト乳剤(※2)	ミルベメクチン	収穫前日まで	2回以内	6
ディアナSC	スピネトラム	収穫前日まで	2回以内	5
トランスフォームフロアブル	スルホキサフロル	収穫前日まで	2回以内	4C

(令和2年10月14日時点)

(※1) アグリメック、アプロードエースフロアブルはミニトマトに未登録。

(※2) 成虫に対する殺虫効果が低い。

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、http://www.jcpa.or.jp/lab0/pdf/2020/mechanism_irac02.pdf を参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。